

Q：原爆投下による被爆の犠牲者以外の被曝による犠牲者を教えてください。

A：1945年8月、広島、長崎に原爆投下、被爆により多数の犠牲者がでたが、その後の被曝による犠牲者も何十年と続いて癌その他の病に冒させ苦しみがきながら死んでいった。

原爆投下（午前8時）後、午後遅く猛烈な降雨があった。これは原爆投下で猛烈な熱が放射され大気が熱で膨張して、熱を帯びた大気が上昇し、上空で急速に冷やされ猛烈な降雨となったが、原爆の爆発で放出された放射能を帯びたチリが拡散し、このチリが水滴の核になり、黒い雨となったのですが、これが放射能を帯びた死の雨となり、この雨に濡れた人々の大半は原爆投下の直接的な被爆者ではなく、救援のために近隣から広島市内に入ってきた人達が雨に濡れ被曝したことになります。後に原爆後遺症に悩まされ次々に亡くなっていったのです。



勿論黒い雨と放射能の関係など知るよしもなく、雨に濡れながらも救援に努めていたのです。

この事実は、1989年5月「黒い雨」のタイトルで映画化され、ご覧になった方もいると思います。井伏鱒二原作、今村昇平監督、主演田中好子、で数々の賞に輝いた映画でした。

戦後においても、原爆被害の後遺症は何十年も続いており、原爆の日の慰霊祭には新たな名が刻まれております。

更には、前項で述べた通り、第五福竜丸被曝事件、JOC 臨界事故がありました。

世界はどうだったんでしょうか。戦後の昭和二十年代、三十年代は先進各国は競って原爆、水爆の核実験を各地で行い、地上、海上、海中、地中、大気圏での核実験を繰り返し、判明しているだけでも二千数百回に及んでいます。

このため核分裂で生じた放射性物質は、上空 10km 以上の対流に乗って世界規模で拡散した。例えばヨウ素 131 とセシウム 137 の全放出量（国連科学委員会報告）は、福島第一原発でのヨウ素 131，セシウム 137 の推定放出量のそれぞれ約 5000 倍と約 100 の量にあたるという。当時、新聞や TV、ラヂオで絶対に雨に濡れないよう呼びかけ、降雨に含まれている放射能の測定値を報じていおり、雨に濡れると禿になると本気で信じられていた。

団塊の世代から、東京オリンピック以前に生まれた方は生涯許容シーベルトは高いのではないのでしょうか。

原水爆の実験を開始した頃は、広島、長崎での原爆後遺症の怖ろしさを公表していなかったらしく、核の実験場付近の警備にあっていた兵士は通常の戦闘服で立哨しており、内部被曝をしまい、後年後遺症に苦しんだ元兵士が多数いたようですが、各国とも公表はなし、国益優先で沈黙したままです。

